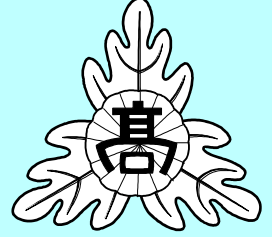


市来農芸 だより



第73回卒業式

3月1日(月)、来賓や保護者の方々に出席していただき、農業経営科14名、生物工学科32名、生活科7名、合計53名の3年生が本校から卒業します。

「卒業生に送る 餞の言葉」

校長 倉岡八郎
卒業おめでとうございませう。

卒業生の皆さんの輝かしい門出にあたり、日本の文豪夏目漱石の遺訓「牛になること」の言葉を贈ります。「牛になることは、どうしても必要です。吾々とはかく馬になりたがるが、牛には中々なり切れないです。」
これからの皆さんの未来は、決して楽しいことばかりでなく、苦しいこと・辛いこと・悲しいことなど、実に様々な

第215号

令和3年3月1日
編集・発行
市来農芸高校広報係
いちき串木野市湊町160
Tel (0996) 36-2341
発行責任者
校長 倉岡 八郎

試験が待ち受けています。そんな時、この遺訓の「牛」になって、焦らず「根気づくで」試験を乗り切つて欲しいと願います。人の痛みを知る豊かな心を持って全世界で活躍してくれることを期待しています。

卒業生の前途に幸多からんことを祈念し、卒業生に贈る餞の言葉といたします。卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

卒業生へ思うこと

学年主任 宮脇 勝雄

今年度は新型コロナウイルスの世界的な流行に伴い、学校が休校に追い込まれたり、学校行事が中止や縮小になったりしました。更に、農業クラブや部活動の大会が中止となって、残念な思いや悔しい思いをした3年生も少なくないと思います。全く

先が見えないまま、進路活動がスタートしましたが、終わってみれば100%の進路実現を達成することができたことは嬉しい限りです。そして、その多くが農業に関連した進路先であることも、農業教員としての喜びを感じます。

さて、皆さんは農業実習を通して、汗をかき、手を汚し、愛情をかけることにより作物や家畜が育つことを学びました。農業の営みは、自然を相手にし、自然の摂理を利用します。時には自然が牙を剥くこともあり、決して簡単ではないことや、農業が私たちの命の糧となる食料を提供するだけでなく、豊かな食文化を育んだり、美しい景観やきれいな環境を作ったり、暮らしに癒やしを与えたりしてくれることも知りました。コロナ禍で私たちの生活様式が一変しても、私たちは食わずには生きていけません。農業を学んだ者として、農業の崇高な営みに敬意を払い、食に関心を持って生きて欲しいと思います。農業を学んだことを誇りに、新しい道に進んで欲しいと思います。

進路指導部 常 秀樹

「現社会人が新入社員に求めたい力とは？」①「常識力」②「あいさつ力」③「コミュニケーション力」 新入社員を迎えた職場の先輩たちの声である。

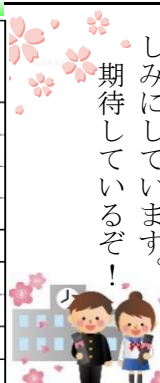
「常識がない若者が多すぎる・とりあえず常識があればいい」「しつかりあいさつをしてくれると、やる気が感じられて、こちらも丁寧に教えてあげようと思える。」「礼に始まり礼に終わる。」「あいさつがその人の総合的な評価に繋がる。」「いくら万能だったとしても、良い人間関係を築けなければ終わり。」「人付き合いが上手でないとい仕事もできない」常識力・あいさつ力・コミュニケーション力・この三項目は職場で多様な人々と共に事を行っていく中で必要な基礎的な能力だ。社会人基礎力の「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の土台とも言える身につけるべき必須の能力である。
さて、辛口のコメントはさておいて、「卒業おめでとう」人生百年の時代です。充実した人生が送れるように、頑張ってください。

新たな歴史を創る後輩たちへ

卒業生 3B川北 実鈴

来年度新入生から新たな学科がスタートします。後輩の皆さんには、今まで先輩方が築き上げてきたものを更に自分たちらしく発展させ、誇りを持って高校生活を送ってほしいと思います。日々の実習などで鍛え上げられた熱い農芸魂で新しい農芸の風を起してください。私たちは頼れる存在だったかわからないけれど、こんな私たちにいつかきてくれてありがとう。皆さんと過ごした時間は、とても充実した楽しい思い出として心に刻まれています。

皆さんの活躍が卒業した私たちの元にも届くことを楽しみにしています。期待しているぞ！



令和二年度卒業生の進路状況

(R3.2.20現在)

学科	農業経営	生物工学	生活	合計
進路先				
大学	2	5	0	7
短期大学	0	0	0	0
県立農大	4	8	0	12
専門学校等	1	8	2	11
進学合計	7	21	2	30
県内就職	7	10	4	21
県外就職	0	1	1	2
就職合計	7	11	5	23
合計	14	32	7	53

気張れ!

若き農業経営者たち!



「営農の門出を励ます会」に出席した卒業生たち。未来を担う農業経営者としての第一歩です。

2月16日(火)、農業関連への進学・就職を決定した3年生21名を対象に、「営農の門出を励ます会」が開催されました。

当日は、いちき串木野市長田畑誠一様、農業関係行政機関、JAさつま日置、日置地区農業青年クラブより来賓の出席がありました。農業経営科 大脇亮介君(清水中)、農業経営科 河野秀太君(和田中)、生物工学科 中養母陸斗君(上市来中)の3名が代表として抱負を発表し、来賓の方々からの言葉や、1・2年生からの励ましの拍手をもらい、気持ちを新たにしました。

ウイルスフリー苗



引き渡し式

2月12日本校でJAさつま日置と酒造会社の方を招いて、サツマイモのウイルスフリー苗の引き渡し式を行いました。生物工学科の植物バイオ班の学習の成果が、県内の産業に役立っています。



2年生の視察研修

1月26日(火)に農業経営科が、2月3日(水)に生活科が進路選択や専門教科の学習を深めるために、県内の先進農家や企業を訪問しました。現場の様子を直接見学・体験・質問できて、充実した研修の機会になりました。



職員コラム

母校である市来農芸で働き始めてもうすぐ1年が過ぎようとしている。学生だっただけと比べると生徒数が少なくなっていたり、あった施設などがなくなっていたり少し寂しいものを感じるが、変わっていないところもあり懐かしさも感じる。寮での生活も昨日のように思い出す。また、今と違い、当時はくり募集といって、1年次に農業経営科、生物工学科の各部門を学び、2年生になったら自分の行きたい科を選択する形であった。各部門の実習自体は片手で数えるぐらいしかなかったと思うが、生物工学科で畜産を学んだ。楽しかったことやきつかったこともあったが、とても充実した時間を過ごすことができた。時間はかけがえのないものである。どんな人でも1日に与えられた時間は平等で24時間しかなく、睡眠時間などを除くとかなり短くなる。その限られた時間を勉強に使っている人、スポーツに使っている人、テレビやゲームに使っている人など様々な

時間の使い方がある。ただ、どんな時間でも使い方が次第では有効になるのではない。また、時間はビデオのように巻き戻すことはできない。今、過ごしている1分1秒はすでに過去となり、この時間は二度と戻っては来ない。集団生活の中で時間に遅れるということとは他人の貴重な時間を奪っているということになりかねない。なので、時間はもう二度と戻ってこないと考え、行動できる人になって欲しい。この2点のことを踏まえ、時間をどのように使っていくのか考え、自分の時間を大切にできる人になってください。自分の時間を大切にできる人は他人の時間も大切にできるのではないかと思ふ。4月からはそれぞれ新しい学年や生活が始まる。気持ちよいスタートができるように時間の使い方について考えて生活してみたらどうだろうか。

森田 大貴



農芸市場だより

3月の農芸市場は、2、16日(火)のみ14:30からです。都合により急遽休みになることがあります。開催する場合は旗が立ちますので目安にしてください。

- < 販売物 >
- < 野菜 > ・ トマト 200円
- < 卵 > ・ Lサイズ 220円 ・ Mサイズ 200円
- < 果樹 > ・ サワーポメロ 1kg 400円
- < 花苗部門よりお知らせ >
- 3月下旬よりハウスにて花苗を販売します。

行事予定 ～3月～

- 1日(月) 第73回卒業式
- 5日(金) プロジェクト発表校内選考会
- 9日(火) 一般入学者選抜(～10日) 生徒自宅学習期間(～15日)
- 17日(水) 一般入学者選抜合格発表
- 20日(土) 春分の日
- 22日(月) ビジネスマナー講座(1年)
- 23日(火) 2年1日遠足
- 24日(水) 第二次入学者選抜
- 25日(木) 修了式、離任式